

学校 教育 目標	○「働く」…主体的に社会貢献できる職業人をめざします。 働くことを目指した学びを通して、働く意味や喜びを知り、主体的に社会とつながり、もてる力を発揮し貢献する力を育てます。 ○「自立」…社会や他者とつながりがもてる自立した社会人をめざします。 社会とつながり、多様な人々との交わりを通して、自己の理解を深め、他者と協働しながら自分らしく社会生活を送ることができる力を育てます。 ○「自己実現」…自分の幸せを思い描き、実現していく人をめざします。 社会や他者を尊重し、自己の夢や希望に向かって、自分らしく幸せに生活するために自分の人生を自分で選び、決定し、実現していく力を育てます。					
	学校 概要	創立 19 周年	学校長 古川 晶大	副校長 菅井 昭宏	2 学期制	
	幼児・児童・生徒数:	137 人	幼稚部:	0 人	小学部:	0 人
			中学部:	0 人	高等部本科:	137 人
					専攻科:	0 人

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた 「3年間で育てる子ども像」と具体的取組
○主体性、コミュニケーション能力、問題解決能力 ○協働性、自己有用感、自己理解・相談力 ○自己選択、自己決定力、キャリアプランニング能力	○主体的に働く態度や姿勢をもち、積極的に社会貢献しようとする人 ○自己理解、他者理解を深め、他者とつながり、協働しながら自立しようとする人 ○自分の思いや願いをもち、それを実現していこうとする人 ----- ・教員が伴走者として、生徒のキャリア発達を促すための「問い」や「仕掛け」を考え、生徒主体の授業づくりに問題解決的に取り組んでいく。 ・各職業コースにおいて、共通の評価基準等を使用して、生徒が仲間や教員と対話を通して、目標設定やふり返しを行うことで、自己理解を深められるよう、全教職員が共通認識のもと取り組んでいく。 ・「生徒自治の学校」を実現するため、生徒の思いや願いを教育課程の運営改善、学校行事の検討などに活かしていく。

中期 取組 目標	○卒業後の自立と社会参加を見据え、3年間を通じて他者との対話を積み重ね、自己理解や他者理解を深めるとともに、「主体性」や「協働性」、「相談力」等を育む教育を推進していきます。 ・生徒が自身の学びや学校生活において、「なぜ、なんのために」を考えられる力を育てます。 ・仲間との協働的な学びを通して、自己理解や他者理解を深めることで、困ったときに相談できる「相談力」を育てます。 ・地域や関係機関Win-Winの関係を構築することで、生徒の学校外での学びを充実させ、一人ひとりの自己有用感を育みます。 ・生徒の思いや願いに寄り添い、一人ひとりの意思決定を支援することで、本人の「自己選択」、「自己決定」の力を育てます。
-------------------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生徒主体の学び 担当 教育課程委員会	①職業科をはじめすべての教科等の授業で、キャリア教育の視点を大切に「なぜ」「何のために」学ぶのか、自分の言葉で語ることができるように、生徒主体の学びを展開する。生徒の思いに寄り添い、一人ひとりの自己実現をめざすための学びを提供する。 ②対話を通じた学び合いにより、生徒の発信力や傾聴力を高め、さらに自身の考えを推進する。③自己実現を図るために、「支える支援」へ転換し、生徒が「自己選択・自己決定」することができる学習場面を多く設定する。
徳 人権教育 担当 人権教育委員会	①人とのつながりやもち、対話の中で、自己有用感や自尊感情を高め、他者との違いを認め、共に支え合える関係を育む。②全ての教育活動を通じて、自己選択、自己決定を繰り返す、自分らしく豊かに生きる力を育てる。③教職員が研修や人権チェックシート等で自身の取組や生徒との関わり方を振り返り、日々の教育活動や生徒に対する自身の関わりは、人権教育が基盤であることを確認し、人権意識の高揚に努める。
体 健やかな体 担当 保健体育研	①体育科の授業を中心に、主体的・協働的な学習を通して、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを過ごすとともに、継続して運動に親しむ意欲や体力の向上を目指す。②保健分野の学習等を通して、自立や就労生活における健康・安全や自分の体についての理解を深め、生活に生かす力を育てる。
公開 キャリア教育 担当 キャリア支援部	①自己実現を図り、主体的に成長できるよう、「キャリアパスポート」等のツールを用いた取組や「キャリアデザイン相談会」などの学びを通して、生徒のキャリア発達を促し、主体性や協働性、相談力の向上を図る。②Keepsafeの取組を通して、自身の考える幸せな人生を送っていくことを目指し、全学年週1回の授業を行う。自分のありたい姿を考え、自分の新しい認知を深めていくことができるよう対話を中心に取り組む。自分の幸せのために、自分でグッドウエイを選ぶことができるよう、生徒の意思決定を支援していく。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①全教職員で全生徒と関わり、支援する意識をもち、一人ひとりの生徒理解に基づき、変化等に気付く「アンテナ」を高く持ち、課題を早期発見・早期解決できるように努める。②いじめの未然防止に向け、予防的な取組を重視した情報共有と指導・支援体制の構築を行う。外部講師を招き、いじめ防止教室を実施する。③月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、管理職、学年主任、担任、支援担当、CO、養護教諭などが情報共有をし、組織的としていじめ対応に取り組む。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 研究研修部(育成係)	①生徒の支援に関することや授業づくり等について、教職員同士が対話を重ね、互いに学び合い、支え合う関係性を築き、相談しやすい職場環境を作っていく。②メンターチーム研修や研究授業、授業後の協議会の場において、最新の専門知識や指導技術を共有し、互いに身に付け、授業力向上を目指していくようにする。③外部講師による研修や他校の公開研究会など、校外での研修に積極的に参加し、授業改善を進める。
横浜型センター的機能の取組 担当 特別支援教育コーディネーター	①高等部だけの特別支援学校の特色を生かしたセンター的機能校として、地域の小・中学校のニーズ、将来の生活に向けた取組を捉えて、学校支援やコンサルテーションを行う。②区専任会や各種協議会等に積極的に参加して日頃から関係性を築いたり、発信を行ったりし、特別支援教育推進を意識した連携やコンサルテーションを進める。
個に応じた指導 担当 総務部(教務係)	①個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成にあたっては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた目標、指導内容、指導方法等を設定する。本人、保護者と対話を通じて合意形成をはかり、一貫した支援を行う。②生徒一人ひとりの実態や状況、ニーズに応じて、個別支援(指導)、登校支援等を行い、3年間学び続けられるよう「支える支援」を進める。
地域学校協働活動 担当 職業代表者会	①学校運営協議会の充実を図り、地域と結びつきの強い委員への委嘱を行い、更なる地域協働活動の充実を図る。主幹教諭はじめミドルリーダーも出席し、取組を発信する機会をさらに設ける。②せやまる(シャローム三育保育園、にこてらす)、こまち、二つ橋小学校、区役所等々、職業コースやチャレンジワークでの活動や実習とのつながりを広げ、強めるようにする。新たな連携先や企業等の開拓を行い、持続可能な連携を進めるようにする。
a15 担当	a25